

やってくる自動運転時代

新型日産セレナ市販開始

日産自動車の新型「セレナ」に搭載された自動運転技術は、私たちの地域に対しても将来的に大きな影響を与える。交通事故の心配が減り、全ての地域のお年寄りが生き生きと乗用車で日常的に買い物を楽しむ。自動運転技術は、そんな理想のクルマ社会を実現する可能性を持っている。警察庁のデータによれば、交通事故の原因の約9割が運転者による人為的ミスだ。事故の死者数は1990年代前半を境に減少傾向にあるが、近年は減少率が鈍化。青森県内でも昨年中に3854件の交通事故が発生し、40人が死亡、4773人が負傷した。自動運転技術は、車が周辺の車両や前方の状況を確認して危険を回避してくれ

青森県内有識者も期待

るため、運転者が原因の交通事故を大幅に低減できると期待されている。加えて期待されるのが、中心部から遠隔地に住む高齢者のモビリティ(移動のしやすさ)確保だ。バス事業者は自治体の支援を受けて路線バスの維持に努めているが、幹線部分から離れた過疎地域までカバーするのは困難。高齢化が急速に進展しており、乗用車以外の交通手段を持たずに運転能力が衰える高齢者の人数が増加することは避けられない。自動運転技術が発展すると、「交通弱者」の増加を防ぐ効果も見込まれる。

競争にとどまっていた。自動運転技術の開発はこの競争とは全く違って、いわばインベーションだ。非常に思い切りが良く、さらなる進展に期待したい」として、日産自動車の企業姿勢を評価。また同大

者はもちろん、子育てなどに忙しい現役世代にとっても、「行きたい場所に自由に行ける」という生きがいづくりを支援する効果がある」として、活力の創造につながることに期待した。



自動運転技術の進展に期待する八戸学院大学の田村正文准教授(右)と丹羽浩正教授